

# デーヴォ ガイド



**2022.10.17-23**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?



36:1 これはエサウ、すなわちエドムの歴史である。  
 36:2 エサウはカナンの中から妻を迎えた。すなわち、ヒッタイト人エロンの娘アダと、ヒビ人ツィブオンの娘アナの娘オホリバマ、  
 36:3 それにイシュマエルの娘でネバヨテの妹バセマテである。  
 36:4 アダはエサウにエリファズを産み、バセマテはレウエルを産み、  
 36:5 オホリバマはエウシュ、ヤラム、コラを産んだ。これらはカナンの地で生まれたエサウの子である。  
 36:6 エサウは、その妻たち、息子と娘たち、その家のすべての者、その群れとすべての家畜、カナンの地で得た全財産を携え、弟ヤコブから離れて別の地へ行った。  
 36:7 一緒に住むには所有する物が多すぎて、彼らの群れのために寄留していた地は、彼らを支えることができなかったのである。  
 36:8 それでエサウはセイルの山地に住んだ。エサウとは、エドムのことである。  
 36:9 これは、セイルの山地にいたエドム人の先祖エサウの系図である。  
 36:10 エサウの子の名は次のとおり。エサウの妻アダの子エリファズ、エサウの妻バセマテの子レウエル。  
 36:11 エリファズの子はテマン、オマル、ツェフォ、ガタム、ケナズである。  
 36:12 ティムナはエサウの子エリファズの側女で、エリファズにアマレクを産んだ。これらはエサウの妻アダの子である。  
 36:13 レウエルの子はナハテ、ゼラフ、シャンマ、ミザで、これらはエサウの妻バセマテ

の子であった。

36:14 ツィブオンの娘アナの娘である、エサウの妻オホリバマの子は次のとおり。オホリバマはエサウに、エウシュとヤラムとコラを産んだ。

36:15 エサウの子で首長は次のとおり。エサウの長子エリファズの子では、首長テマン、首長オマル、首長ツェフォ、首長ケナズ、

36:16 首長コラ、首長ガタム、首長アマレクである。これらはエドムの地にいるエリファズから出た首長で、アダの子である。

36:17 エサウの子レウエルの子では、次のとおり。首長ナハテ、首長ゼラフ、首長シャンマ、首長ミザ。これらはエドムの地にいるレウエルから出た首長で、エサウの妻バセマテの子である。

36:18 エサウの妻オホリバマの子では、次のとおり。首長エウシュ、首長ヤラム、首長コラである。これらは、エサウの妻で、アナの娘であるオホリバマから出た首長である。

36:19 これらはエサウ、すなわちエドムの子で、彼らの首長である。

36:20 この地の住民フリ人セイルの子は次のとおり。ロタン、ショバル、ツィブオン、アナ、

36:21 ディション、エツェル、ディシャンで、これらはエドムの地にいるセイルの子フリ人の首長である。

36:22 ロタンの子はホリ、ヘمام。ロタンの妹はティムナであった。

36:23 ショバルの子は次のとおり。アルワン、マナハテ、エバル、シェフォ、オナム。

36:24 ツィブオンの子は次のとおり。アヤ、

アナ。これは、父ツィブオンのろぼを飼っていたとき、荒野で温泉を見つけたアナである。

36:25 アナの子は次のとおり。ディションと、アナの娘オホリバマ。

36:26 ディションの子は次のとおり。ヘムダン、エシュバン、イテラン、ケラン。

36:27 エツェルの子は次のとおり。ビルハン、ザアワン、アカン。

36:28 ディシャンの子は次のとおり。ウツ、アラン。

36:29 フリ人の首長は次のとおり。首長ロタン、首長ショバル、首長ツィブオン、首長アナ、

36:30 首長ディション、首長エツェル、首長ディシャン。これらは、セイルの地での首長ごとに挙げた、フリ人の首長である。

エドムとは「赤」を意味することばで、赤毛が濃かったエサウの別名です。エサウは信仰の面で無感覚であったので、神様からの祝福をいいかげんに扱ったり、また異教のカナン人から妻をめとるなどしました。その妻が母のリベカの悩みであったとも聖書は記しています。

それだけでなくエドムの子孫は、後にイスラエルに敵対したエドム人、またアマレク人（12節）となるのです。エドム人はエジプトから逃れてきたイスラエルを妨害し、ダビデ王、ソロモン王の時代にも敵対し、捕囚時代にはユダに侵略してきたのです。信仰の家庭に生まれても、神の御心に生きなければ、次第に神に反抗する流れを作ってしまうことになりかねません。御心に聞き、従いましょう。

①神のみこころは？ ②どんな思いになりましたか？③生き方にどう適用しますか？④この世にあって何を実践しますか？

## ➤ 18日 火曜

### 創世記

36:31 イスラエルの子らを王が治める以前、エドムの地で王として治めた者は次のとおりである。

36:32 ペオルの子ベラはエドムで治めた。彼の町の名はディンハバであった。

36:33 ベラが死ぬと、ボツラ出身のゼラフの子ヨバブが代わりに王となった。

36:34 ヨバブが死ぬと、テマン人の地から出たフシャムが代わりに王となった。

36:35 フシャムが死ぬと、モアブの野でミディアン人を打ち破った、ベダデの子ハダドが代わりに王となった。その町の名はアウイテであった。

36:36 ハダドが死ぬと、マスレカ出身のサムラが代わりに王となった。

36:37 サムラが死ぬと、レホボテ・ハ・ナハル出身のシャウルが代わりに王となった。

36:38 シャウルが死ぬと、アクボルの子パアル・ハナンが代わりに王となった。

36:39 アクボルの子パアル・ハナンが死ぬと、ハダルが代わりに王となった。彼の町の名はパウであった。妻の名はメヘタブエルで、メ・ザハブの娘マテレデの娘であった。

36:40 エサウから出た首長の名は、その氏族とその場所ごとにその名を挙げると次のとおり。首長ティムナ、首長アルワ、首長エテテ、

36:41 首長オホリバマ、首長エラ、首長ピノン、

36:42 首長ケナズ、首長テマン、首長ミブツアル、

36:43 首長マグディエル、首長イラム。これらはエドムの首長であり、所有地で住んでいた場所ごとに挙げたものである。エドム人の



先祖はエサウである。

エサウも神様から富の祝福はもらいました。ただしそれでヤコブと共存できなくなり、信仰の地から遠く離れて住んでしまったのです。エサウから多くの首長が出て、祝福をもらっているようではありますが、それも後に神に敵対し、惨めな結末となるのです。（アマレク人は紀元前8世紀に滅ぼされました）

本当の恵み、永遠の祝福を心に留め、御心を第一として人生を歩んでいきましょう。

聖書ではよく系図が記されていますが、それは記述が歴史的事実であること、そして神が現実の中に力強く働かれる方であること証しするためです。

31節以降は、後にイスラエルに王が生まれることを表しています。創世記はモーセが書いたのですが、モーセより後のことが書かれています。つまり必要を感じて後代に加えられたのです。聖書の記者は個人だけではなく、歴史を超えたものであるのです。その背後に主権を持って書かしたものは主なる神ご自身です。歴史を導かれた主は、私をも支配し導かれると確信し、その力強い臨在とともに進みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 19日 水曜

### 創世記



37:1 さて、ヤコブは父の寄留の地、カナンの地に住んでいた。

37:2 これはヤコブの歴史である。ヨセフは十七歳のとき、兄たちとともに羊の群れを飼っていた。彼はまだ手伝いで、父の妻ビルハの子らやジルバの子らとともにいた。ヨセフは彼らの悪いうわさを彼らの父に告げた。

37:3 イスラエルは、息子たちのだれよりもヨセフを愛していた。ヨセフが年寄り子だったからである。それで彼はヨセフに、あや織りの長服を作ってやっていた。

37:4 ヨセフの兄たちは、父が兄弟たちのだれよりも彼を愛しているのを見て、彼を憎み、穏やかに話すことができなかった。

37:5 さて、ヨセフは夢を見て、それを兄たちに告げた。すると彼らは、ますます彼を憎むようになった。

37:6 ヨセフは彼らに言った。「私が見たこの夢について聞いてください。

37:7 見ると、私たちは畑で束を作っていました。すると突然、私の束が起き上がり、まっすぐに立ちました。そしてなんと、兄さんたちの束が周りに来て、私の束を伏し拝んだのです。」

37:8 兄たちは彼に言った。「おまえが私たちを治める王になるというのか。私たちを支配するというのか。」彼らは、夢や彼のことばのことで、ますます彼を憎むようになった。

37:9 再びヨセフは別の夢を見て、それを兄たちに話した。彼は、「また夢を見ました。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいました」と言った。

37:10 ヨセフが父や兄たちに話すと、父は彼を叱って言った。「いったい何なのだ、おま

えの見た夢は。私や、おまえの母さん、兄さんたちが、おまえのところに進み出て、地に伏しておまえを拝むというのか。」

37:11 兄たちは彼をねたんだが、父はこのことを心にとどめていた。

37:12 その後、兄たちは、シェケムで父の羊の群れを世話するために出かけて行った。

37:13 イスラエルはヨセフに言った。「おまえの兄さんたちは、シェケムで群れの世話をしている。さあ、兄さんたちのところに使いに行ってもらいたい。」ヨセフは答えた。「はい、参ります。」

37:14 父は言った。「さあ、行って、兄さんたちが無事かどうか、羊の群れが無事かどうかを見て、その様子を私に知らせておくれ。」こうして彼をヘブロン谷から使いに送った。それで彼はシェケムにやって来た。

37:15 彼が野をさまよっていると、一人の人が彼を見かけた。その人は「何を捜しているのですか」と尋ねた。

37:16 ヨセフは言った。「兄たちを捜しています。どこで群れの世話をしているか、どうか教えてください。」

37:17 すると、その人は言った。「ここからは、もう行ってしまいました。私は、あの人たちが『さあ、ドタンの方に行こう』と言っているのを聞きました。」そこでヨセフは兄たちの後を追って行き、ドタンで彼らを見つけた。

ヨセフは17歳でしたが非常に無邪気なところがあり、それゆえ自分が主人公で周囲の気持ちを察することができないという欠点がありました。父から特別扱いされても当たり前前に思っていたようです。父ヤコブはそんなと

ころが自分の若い頃と似ていましたし、また亡くなった愛するラケルの子でもありましたので、いっそうヨセフを愛したのでしょうか、それは偏愛でした。

ヤコブもその母リベカから偏愛されていたわけで、そのような親子関係の問題がそのまま子や孫に受け継がれてしまった構図です。そしてそれは息子兄弟たちの憎しみとなって表れてしまいました。

聖書では時に夢が神からの啓示として記されますが、ヨセフの夢には、神からのことばは備わっていません。ヨセフが願望から見た夢を、神様が用いられたというのが一般的な解釈です。ヨセフや兄弟たちは主のご計画に用いられましたが、本当の意味でお役に立つようになるまでには、まだまだ多くの聖めと成長が必要だったのです。

主のご計画を悟りつつ、謙遜になって、お役に立ちつつ用いられる者になりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





## 20日 木曜

### 創世記



37:18 兄たちは遠くにヨセフを見て、彼が近くに来る前に、彼を殺そうと企んだ。

37:19 彼らは互いに話し合った。「見ろ。あの夢見る者がやって来た。

37:20 さあ、今こそあいつを殺し、どこかの穴の一つにでも投げ込んでしまおう。そうして、狂暴な獣が食い殺したと言おう。あいつの夢がどうなるかを見ようではないか。」

37:21 しかし、ルベンはこれを聞き、彼らの手から彼を救い出そうとして、「あの子を打ち殺すのはやめよう」と言った。

37:22 また、ルベンは言った。「弟の血を流してはいけない。弟を荒野の、この穴に投げ込みなさい。手を下してはいけない。」これは、ヨセフを彼らの手から救い出し、父のもとに帰すためであった。

37:23 ヨセフが兄たちのところに来たとき、彼らは、ヨセフの長服、彼が着ていたあや織りの長服をはぎ取り、

37:24 彼を捕らえて、穴の中に投げ込んだ。その穴は空で、中には水がなかった。

37:25 それから、彼らは座って食事をした。彼らが目を上げて見ると、そこに、イシュマエル人の隊商がギルアデからやって来ていた。彼らは、らくだに樹膠と乳香と没薬を背負わせて、エジプトへ下って行くところであった。

37:26 すると、ユダが兄弟たちに言った。「弟を殺し、その血を隠しても、何の得になるだろう。

37:27 さあ、ヨセフをイシュマエル人に売ろう。われわれが手をかけてはいけない。あいつは、われわれの弟、われわれの肉親なのだから。」兄弟たちは彼の言うことを聞き入れ

た。

37:28 そのとき、ミディアン人の商人たちが通りかかった。それで兄弟たちはヨセフを穴から引き上げ、銀二十枚でヨセフをイシュマエル人に売った。イシュマエル人はヨセフをエジプトへ連れて行った。

37:29 さて、ルベンが穴のところに帰って来ると、なんと、ヨセフは穴の中になかった。ルベンは自分の衣を引き裂き、

37:30 兄弟たちのところに戻って来て言った。「あの子がない。ああ私は、私は、どこへ行けばよいのか。」

37:31 彼らはヨセフの長服を取り、雄やぎを屠って、長服をその血に浸した。

37:32 そして、そのあや織りの長服を父のところに送り届けて、言った。「これを見つけました。あなたの子の長服かどうか、お調べください。」

37:33 父はそれを調べて言った。「わが子の長服だ。悪い獣が食い殺したのだ。ヨセフは確かに、かみ裂かれたのだ。」

37:34 ヤコブは自分の衣を引き裂き、粗布を腰にまとい、何日も、その子のために嘆き悲しんだ。

37:35 彼の息子、娘たちがみな来て父を慰めたが、彼は慰められるのを拒んで言った。「私は嘆き悲しみながら、わが子のところに、よみに下って行きたい。」こうして父はヨセフのために泣いた。

37:36 あのミディアン人たちは、エジプトでファラオの廷臣、侍従長ポティファルにヨセフを売った。

どでした。またその夢の通りに自分たちが、ヨセフに仕えるようになることを嫌い恐れて弟ヨセフを殺そうとします。

実際には全員が同じ考えではなく、長兄のルベンはヨセフを救おうとしますし、ユダは命だけは助けようとしています。しかし聖書では、彼らも他の兄弟たちと同じように飢饉に苦しみ、最後にはヨセフにひれ伏すこととなります。正しいと信じることは、立場が悪くなくても自分を犠牲にしても、成し遂げる勇気も必要です。ルベンは中途半端であったと言えるでしょう。

またそこには主のご計画を見ることができます。自分を失って嘆き悲しむ父も、味方になってくれそうだった兄ルベンも今や何も頼りになりません。しかしヨセフの最悪の時に、すでに主の祝福と勝利は備わっていたのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

兄たちはヨセフが見た夢で怒り、日頃から父に偏愛されていることから憎しみ、彼を殺したいほ



## 21日 金曜

### 創世記



38:1 そのころのことであつた。ユダは兄弟たちから離れて下って行き、名をヒラというアドラム人の近くで天幕を張った。

38:2 そこでユダは、カナン人で名をシュアという人の娘を見そめて妻にし、彼女のところに入った。

38:3 彼女は身ごもって男の子を産んだ。ユダはその子をエルと名づけた。

38:4 彼女はまた身ごもって男の子を産み、その子をオナンと名づけた。

38:5 彼女はまた男の子を産み、その子をシェラと名づけた。彼女がシェラを産んだとき、ユダはケジブにいた。

38:6 ユダはその長子エルに妻を迎えた。名前はタマルといった。

38:7 しかし、ユダの長子エルは【主】の目に悪しき者であつたので、【主】は彼を殺された。

38:8 ユダはオナンに言った。「兄嫁のところに入って、義弟としての務めを果たしなさい。そして、おまえの兄のために子孫を残すようにしなさい。」

38:9 しかしオナンは、生まれる子が自分のものとならないのを知っていたので、兄に子孫を与えないように、兄嫁のところに入ると地に流していた。

38:10 彼のしたことは【主】の目に悪しきことであつたので、主は彼も殺された。

38:11 ユダは嫁のタマルに、「わが子シェラが成人するまで、あなたの父の家でやもめのまま暮らしなさい」と言った。シェラもまた、兄たちのように死ぬといけなと思ったからである。タマルは父の家に行き、そこで暮ら

した。

ユダもまた父ヤコブと同じように、異教の人々と同化してしまう道を選んでしまいました。兄弟たちから「離れて下って」とありますから、アブラハム、イサク、ヤコブに掲げなされた神とともに生きる共同体から離れてしまったのです。理由は書かれていませんからその必要はなかつたのでしょう。神の共同体から離れてしまうということに問題の始まりがあるのです。

同化の最も顕著なものは結婚です。ユダの結婚の動機はただ「娘を見そめて」でした。神のご計画による祝福がその子孫にまで及ぶという、すばらしい約束を第一としないで、祝福の基である神への信仰をないがしろにした結婚だったので。子どもたちもまた現地の異教の民との婚姻でした。神のみこころに従わない生き方は次世代に影響します。長男エルは主を怒らせるような罪を行いました。

当時兄が死ぬとその子孫を残すために、弟が兄嫁と結婚し子どもをもうけるという習慣がありました。しかし、弟オナンはその義務を果たすように見せかけて、子どもができないようにしていたのです。子どもができると、それは兄の子どもとしての立場になります。財産を取られることになるからです。

ユダの対処はシェラをひたすら守ろうとすることでした。2人の息子が死ななければならなかったその原因が、不信仰・不従順にあつたことに気づかないか、または目をつぶってしまったのです。すべては神様の側から見てみなければなりません。

ことの始まりは神の共同体からの離脱です。そして神のみこころと計画を無視した結婚。そして神を第一としない家庭環境です。ユダは父ヤコブの失敗からそれらを学ぶべきでしたが、それをしなかつたのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



38:12 かなり日がたって、ユダの妻、すなわちシユアの娘が死んだ。その喪が明けたとき、ユダは、羊の群れの毛を刈る者たちのところ、ティムナへ上って行った。友人でアドラム人のヒロも一緒にであった。

38:13 そのときタマルに、「ご覧なさい。あなたのしゅうとが羊の群れの毛を刈るために、ティムナに上って来ます」という知らせがあった。

38:14 それでタマルは、やもめの服を脱ぎ、ペールをかぶり、着替えをして、ティムナへの道にあるエナイムの入り口に座った。シェラが成人したのに、自分がその妻にされないことが分かったからである。

38:15 ユダは彼女を見て、彼女が顔をおおっていたので遊女だと思い、

38:16 道端の彼女のところに行き、「さあ、あなたのところに入らせてほしい」と言った。彼は、その女が嫁だとは知らなかったのである。彼女は「私のところにお入りになれば、何を私に下さいますか」と言った。

38:17 彼が「群れの中から子やぎを送ろう」と言うと、彼女は「それを送ってくださるまで、何か、おしるしを下されば」と言った。

38:18 彼が「しるしとして何をやろうか」と言うと、「あなたの印章とひもと、あなたが手にしている杖を」と答えた。そこで彼はそれを与えて、彼女のところに入った。こうしてタマルはユダのために子を宿した。

38:19 彼女は立ち去って、そのペールを外し、やもめの服を着た。

38:20 ユダは、その女の手からしるしを取り戻そうと、アドラム人の友人に託して子やぎ

を送ったが、彼はその女を見つけることができなかった。

38:21 その友人がその土地の人々に「エナイムの道端にいた娼婦はどこにいますか」と尋ねると、彼らは「ここに娼婦がいたことはありません」と答えた。

38:22 彼はユダのところに戻って来て言った。「あの女は見つかりませんでした。あの土地の人たちも、ここに娼婦がいたことはない、と言いました。」

38:23 ユダは言った。「われわれが笑いぐさにならないように、あの女にそのまま取らせておこう。私はこの子やぎを送ったけれども、あなたはあの女を見つけられなかったのだから。」

ユダの子孫からダビデ王が生まれ、その王の子孫からイエス様が人となって生まれました。そのユダではありますが、聖書では決して脚色も美化もしていません。人間として不完全な部分がかかれているのです。聖書は間違いのない神のことばですから、事実が書かれています。またその事実を通して神様はご自身を啓示なさり、ご計画を進められるのです。

ユダは異教の風習に染まってしまう、遊女と関係を持ちました。古来から偶像の神々の神殿では、巫女が娼婦となり、それまた宗教的な意味を持っていたのです。まことの神以外のものを信仰するのは、人間の願望のためですから、欲望と関連させることは当然の結果です。私たちはまことの神を願望のために用いてはなりません。

またユダは恐れから自分を守るために、当時の良識もタマルのことも考えずに過ごしていました。その結果タマルは亡き夫の父であるユダを、陥れるようなことを謀ったのです。ユダの子孫を産むことによって、その家系に入ることが目的でした。

またユダは「われわれが笑いぐさにならないために」と、また自分を守ることを優先させています。そこには神の前に出て、自分がどうであったかという自省があり

ません。

神様を第一にしないままで、自分や生活を守っているつもりでも、知らないうちに思いがけないことが進んでいる場合があります。常に主とともに歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



38:24 三か月ほどして、ユダに、「あなたの嫁のタマルが姦淫をし、そのうえ、なんとその姦淫によって身ごもっています」と告げる者があった。そこでユダは言った。「あの女を引き出して、焼き殺せ。」

38:25 彼女が引き出されたとき、彼女はしゅうとのところに人を送って、「この品々の持ち主によって、私は身ごもったのです」と言った。また彼女は言った。「これらの印章とひもと杖がだれのものか、お調べください。」

38:26 ユダはこれを調べて言った。「あの女は私よりも正しい。私が彼女をわが子シエラに与えなかったせいだ。」彼は二度と彼女を知ろうとはしなかった。

38:27 彼女の出産の時になると、なんと、双子がその胎内にいた。

38:28 出産の時、一人目が手を出したので、助産婦はそれをつかみ、その手に真っ赤な糸を結び付けて言った。「この子が最初に出て来ました。」

38:29 しかし、その子が手を引っ込めたとき、もう一人の兄弟が出て来た。それで彼女は「何という割り込みをするのですか」と言った。それで、その名はペレツと呼ばれた。

38:30 その後で、手に真っ赤な糸を付けた、もう一人の兄弟が出て来た。それで、その名はゼラフと呼ばれた。

嫁であるタマルの売春行為と妊娠を聞いて、ユダは性急に「焼き殺せ」と命じますが、その張本人はユダ自身でした。自分が人をさばくことによって、自分がさばかれることの実例です。人をさばくとき、つまり人の欠点や失敗を非難するとき、本人は自分

とは関係がないと思ってさばくのですが、実は神様からみればまさに同じことをしていると指摘されるでしょう。そしてさばいている分だけ、もっと悪いのです。

子どもはふたごで、ペレツが王とイエス様の先祖となりました。助産婦、つまり人間は別の子を長子としたのですが、主のご計画が違っていたのです。真赤な糸も役にはたちませんでした。このように神様のご計画は人間がどのように関わっても、また仮には妨げようとしても必ず実現するのです。主のそれまでのみわざを考えて、主の導きを理解し、そして将来の主のご計画を知って、それに従い仕えて生きるべきです。それが祝福と生きがいになり満ちた人生です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

